



サイコウサイエンス sci-甲! 甲南高校

担当：永留・田原（1年2組） 狩所・福田（2年4組）

1 プレゼンテーション講座開催（2学年）

9月28日(水)2年生を対象に、プレゼンテーション講座がありました。講師は東京海洋大学で物性物理学を研究なさっている柴田恭平助教授です。

講座では、図や文字の大きさ、色の使い方、人の目線を意識した図や文字の配置の仕方など細かく丁寧に教えていただきました。中でも「プレゼンは推理小説に似ている」とおっしゃっていたのが興味深く感じました。プレゼンの構成は、推理小説を構成するように組み立てていくと、より分かりやすくなるそうです。

講座終了後には、物理実験室で柴田恭平助教授が約20名の生徒の質問に応じてくださるとともに、自然科学部のプレゼンも行われました。

私自身も、自分の研究していることについて質問しましたが、自分では気がつかなかった改善点や修正すべき点をご指摘いただき、とても勉強になりました。

この講座を通して一段上のレベルのスライド作成能力やプレゼン発表スキルが身についたと感じています。SSHの中間発表会を間近に控えていることもあり、多くの人がメモをとったり注意深く聞いたりしていました。この講座を今後の研究に生かして行きたいと思います。

2 ミニ課題研究発表会(1学年)

10月17日(月)に1年生の「ミニ課題研究発表会(本選)」が行われました。9月30日(金)に行われたクラス予選で選ばれた各クラス2グループずつが本選に参加しました。審査員は鹿児島大学の先生方で、様々なアドバイスもいただきました。

吸水性に関する研究を行った班の中には、植物の発芽の仕方について着目した班もありました。土の代わりに用いる素材の吸水性により、発芽の仕方によどのような差が生じるのかを実験中の写真なども交えて発表しました。

また、ヒトの反射に関する研究を行った班の中には、記憶に



残りやすい文字の色について発表があり、「期間が短かったこともあり、

研究結果があまり満足のいくようにならなかったもので、次に機会があればさらに詳しく調べたい。」と話してくれました。どの班もスライドや発表などに工夫が凝らされており、2年生での本格的な課題研究に一步踏み出せたと感じました。

3 「SSH中間発表会」（2学年）

10月28日(金)の午後、2年生による課題研究中間発表会が行われました。予選で選ばれたそれぞれの分野を代表する10班が6分間の発表と2分間の質疑応答を行いました。



審査員として、鹿児島大学や鹿屋体育大学の先生方をお迎えし、発表後は今後の研究を深めるような質問やアドバイスをいただきました。

「ルービックキューブで高校数学を考える」をテーマに



発表した班は、ルービックキューブの面をそろえるパターンが膨大な数にのぼることを、計算式で示しました。

また、「クモの糸のしくみを利用して集水装置を作る」というテーマで発表した班には、審査にあたられた先生方から、「将来的には農業用水として有効活用できるのではないか」というアドバイスがありました。

発表全体を聞いて今回の研究が最終的には「SDGs」の実現に貢献できるものばかりだと感じました。

最後に、鹿児島大学工学部の武井先生が講評を述べてくださいました。良かった点は「パワーポイントの使い方がうまい」ことや「堂々と発表している」ことであり、課題は、「スライドの切り替えや話すスピードが早くて理解が追いつかない」というご指摘がありました。今後は、聴衆に伝わる発表について見直す必要があります。そして、最も大切なこととして、「今回の研究を支えてくださった全ての方へ、感謝の気持ちを言葉で伝えること」を強調されました。

各班において、今後どのような研究が展開されるか楽しみです。